

氏名（本籍）	菅原 裕美		
学位の種類	博士（看護科学）		
学位記番号	博甲第	7401	号
学位授与年月	平成 27 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	長期療養中の統合失調症者における病識に基づいた自己概念		
主査	筑波大学教授	博士（保健学）	水野 道代
副査	筑波大学准教授	博士（看護学）	古谷 佳由理
副査	筑波大学准教授	博士（保健学）	柴山 大賀
副査	筑波大学講師	博士（医学）	高橋 晶

## 論文の内容の要旨

### （目的）

本研究の目的は、統合失調症者が語った病識に関するデータを基に、長期療養中の統合失調症者における自己概念の特徴を、療養の場や療養状況および自尊感情、自己効力感を踏まえながら明らかにすることにある。病識に関するインタビューデータを基に、精神科医療に携わる専門家による確認と、統合失調症者へのアンケート調査により、統合失調症者自身がとらえる自分と、療養の場や療養状況および自尊感情、自己効力感との関連を検討し、彼らの自己概念の特徴を導き出した。

### （対象と方法）

長期療養中の統合失調症者に対する病識についてのインタビューが行われ、そこで対象となった 53 名の統合失調症者が語った内容から、本研究で定義するところの自己概念のカテゴリーに当てはまるデータが取り出された。このデータの分析には Krippendorff の内容分析の手法が用いられた。データ分析結果の妥当性の判断は、精神科臨床経験 5 年以上の専門家（看護師、医師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士）への質問紙調査によって行った。176 名より有効な回答を得た。この調査結果を基に、統合失調症者の自己概念を構成する事柄として関連が強いと考えられる項目を取り出し、自己概念に関する調査票を作成した。調査票では、各調査項目の内容が自分のこととして当てはまるか否かを尋ねた。次に、作成された調査票と自尊感情尺度および自己効力感尺度をもちいて、精神科病棟に入院中あるいは通院中の統合失調症者にアンケート調査を実施し、180 名より有効な回答を得た。自己概念に関する項目の合計得点の平均値と他の 2 つの尺度得点の平均値との関連、および療養の場や療養状況といった背景属性の違いによる自己概念の項目得点の差を

分析し、その結果から長期療養中の統合失調症者の自己概念の特徴を導き出した。

#### (結果)

53名の統合失調症者の病識に関する語りのデータから統合失調症者の自己概念をあらわす53のコードが抽出された。これらのコードが統合失調症者の自己概念をあらわしていると判断することの妥当性を確認した調査において、回答者の90%以上から妥当と評価されたコードは53コード中27で、その他のコードについては、回答内容に基づいて削除あるいはコードの表現を修正する必要がある。この調査結果を基に修正を必要としない27コードを含む計39項目の自己概念に関する質問紙を作成した。この質問紙を用いた統合失調症者への調査において、分析対象となった180名の平均年齢は52.74歳、男性が66.7%を占めた。自己概念に関する得点の平均値は、入院患者よりも通院患者の方が高かった。また主治医から「治療内容」あるいは「病状への対処方法」の説明を受けていると回答した者の方が、受けていないと回答した者よりも高かった。自己概念に関する得点の平均値は、通院患者の場合は自尊感情の尺度得点と、入院患者の場合は自己効力感の尺度得点と、弱い正の相関が認められた。

#### (考察)

本研究で扱われた自己概念は、統合失調症者の病識に関する語りから取り出され、かつ精神科医療に携わる専門家も認める統合失調症者像といえる。そして自己概念得点の高さは、自己概念をあらわす事柄が列記された質問紙の中に、回答者が自分に該当する項目をより多く認めたことをあらわしている。つまり本研究結果は、通院中の患者や、主治医から治療内容や対処法についての説明を受けたと理解している者は、そうでない者より統合失調症者としての病識に関連した自己概念の幅が広いことを示唆している。またその広がり、どちらかという、通院患者の場合は自尊感情と、入院患者の場合は自己効力感と関係しやすいことが考えられる。

## 審査の結果の要旨

#### (批評)

本研究は、長期療養中の統合失調症者の自己概念の特徴を、病識に関するインタビューデータを基に、精神科医療に携わる専門家による確認と、統合失調症者へのアンケート調査によって導き出したものであり、療養の場や病状に関する主治医からの説明の受け止めが、統合失調症者の自己概念に関連することが示唆されたという点において、精神科医療において重要な知見を示している。

平成27年1月28日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（看護科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。